

## インパール平和資料館開館 6 周年記念式典

2025 年(令和7年)8 月 9 日(土)

<小野大使挨拶日本語仮訳>

プニート・ゴエル・マニプール州首席次官、  
W・チャンドバブ・ダナマンジュリ大学副学長、  
マニプール州政府関係者の皆様、  
クンジャビハリ・マニプール観光フォーラム会長、  
ハオバム・ジョイレンバ・インパール平和資料館館長、  
ご列席の皆様

本日は、広島及び長崎の原爆の日、インパール平和資料館開館 6 周年の式典に出席する光栄に浴します。本資料館、マニプール州観光フォーラム、日本財団、笹川平和財団をはじめとしまして、資料館の設立、そして本日の式典の実現に貢献された皆様に心からの感謝を申し上げます。

(マニプール語)この特別な機会に、皆様と共に、われわれの来し方を振り返り、未来への共通の展望を分かち合えることを大変有り難く思います。

今年は第二次世界大戦終結から 80 周年という、記念すべき年です。この地は、第 2 次世界大戦で最も凄惨を極めた戦いのひとつとして記憶されている、1944 年(昭和 19 年)3 月から同年 7 月にかけて展開されたインパール作戦の戦場となりました。

先ほど、私は資料館の展示を拝見する機会を頂きました。写真や地元の方々や日本兵の回顧、語り継がれている物語、日本に残された御家族との当時の手紙・葉書に接し、深い悲しみを覚え、言葉を失いました。

戦争の悲劇はこの地を襲い、無数の人々を恐怖に包みました。無辜の市民が突然、残虐な十字砲火に巻き込まれ、平穏な生活が打ち砕かれました。多くの人々が故郷を追われ、愛する人を失いました。また、この地で尊い命を落とされた数万の日本の御英霊に衷心より哀悼の意を表します。戦争はすべてを奪い、何も与えないということを、私たちは決して忘れてはなりません。

インパール作戦の激戦が繰り広げられたレッド・ヒルのふもとに今、こうして立ち、今日の私たちの平和な暮らしは、まさに戦争の犠牲者の尊い犠牲の上に成り立っていることに思いを致さずにいられません。

この資料館に来る前に、当地で「日本人慰霊碑」と呼ばれているインド平和記念碑に立ち寄り、80年前にこの地で亡くなった旧日本兵や住民の方々を含め、この悲劇で命を落とした人々に厳粛な祈りを捧げました。

この場をお借りして、日本政府および日本国民を代表し、マニプール州の皆様の大なる御支援に対し、心からの感謝と敬意を表します。皆様からの御支援を仰ぎつつ、日本政府として、旧日本兵の御遺骨を収集する活動を続けて参ります。

また、本日は長崎に原爆が投下されてから80年目にあたります。数日前、私は、ニューデリーのインド連邦下院議会にて行われた広島と長崎における原爆の犠牲者への黙祷を見守りました。下院議会における原爆犠牲者への黙祷は長年続けられており、インドはそのような行事を継続して実施している唯一の国でしょう。改めて、日本政府、日本国民を代表し、インド連邦下院議会、インド政府そしてインド国民の皆様ご支持のお気持ちと追悼に感謝申し上げます。インド国民の皆様とともに引き続き核兵器の無い世界の実現に向けて取り組んでいきたいと存じます。

御列席の皆様、

このような悲劇が二度と繰り返されることのないよう、また戦争の惨禍が時とともに風化することのないよう、この悲劇から得た教訓を後世に伝えることが私たちの共通の使命です。

インパール平和資料館は、過去の物語と教訓を保存する役割を担っています。この建物は、平和の道標として、そして希望と和解の力強いメッセージを後世に伝え、人類の強靱な精神と、憎悪や敵対行為を二度と起こさないという私たちの強い決意を表しています。

また、この資料館には、故・安倍晋三総理による「平和」の文字の揮ごうが掲げられています。故・安倍総理が最初に提唱した「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP)というビジョンの下、日本とインドを含む志を同じくする国々は、この地域の平和と繁栄の根本的な礎石として、自由、開放といった共通の価値を推進して参りました。日本はこれまで、そしてこれからも、インド、特に北東州の発展のための信頼できる伴走者であり続けます。道路、港湾、橋などによる地域の連結性強化、貿易協定や税関手続きの円滑化などを通じた経済的枠組の構築、そして、人々、特に若者や女性の能力開発(エンパワメント)により、この地域に発展と繁栄をもたらすのだ、という日本の揺るぎないコミットメントをここに改めてお伝えします。

ここマニプール州を始めとする北東州の人々が秘める大きな可能性を解き放つために、この地に友好の基盤を確固不動に築きましょう。日印「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」を、幅広い協力分野、特に人的交流において強化していきましょう。両国は共に力を合わせ、この地域及び国際社会の平和と繁栄に貢献することができるのです。

御列席の皆様、

最後に、インパール平和資料館開館 6 周年を改めてお祝い申し上げるとともに、この歴史の殿堂の維持に御尽力いただいている関係各位に対し、心からの感謝と尊敬の念を新たにいたします。今後も、私たちの取り組みにより、苦難を経験した人々のあらゆる犠牲が決して忘れ去られることなく、彼らの平和で繁栄した世界への願いが、今後も久遠に受け継がれていくでしょう。

(マニプール語)ありがとうございました。